

耶 麻

巻 頭 言

「三十八年目の学び直し」

耶麻地区小学校長会長

喜多方市立第二小学校長 穴澤 正志

この年齢になりますと、ふとした折に後悔の念に駆られることが増えてきました。

これは、給食準備中にある教室前を通りかかった際の出来事です。A君が「Bが分けたおつゆなんか食いたくない」と言い、B君が「なぜだ」と問い返す。A君は「絶対いやだ」と強く拒み、いつものように口論が始まりました。その後、そのけんかに係る支援員日誌を確認し、私は思わず息をのみました。B君は給食当番の準備として手洗いをしていなかったのです。それがA君の“おつゆ拒否”につながっていたのでした。

私は教職三十八年目を迎え、役職退職が目前に迫っています。それにもかかわらず、A君の拒否の理由を確かめることなく、日頃の様子から憶測し、「指導が必要だ」と一方的に判断してしまったことを、深く反省しました。「こうした思い込みや横柄な態度が、日常のどこかに表れてはいないだろうか。教職員に、地域の方々に、これまで出会った多くの教え子たちに、そして家族に。」そう考えると、居ても立ってもいられない気持ちになりました。

だからこそ、私は周囲の皆様の存在を必要としているのだと、改めて痛感しました。「一人ではできないことも、みんなならできる。」という恩師の言葉が、これまで私の心の支えであり続けた理由が、今になってようやく腑に落ちた思いがします。

これまで耶麻地区を支えてこられた歴代校長先生方から、大切なバトンを受け取った最終年度。皆様のお力添えを賜りながら、微力ではありますが、校長会の発展と地域教育のさらなる充実に尽力してまいり所存です。会員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度 第1号
[通巻 143号]
耶麻地区小学校長会
令和8年7月1日

～転出校長より～

「学び多き耶麻地区」

前喜多方市立堂島小学校長

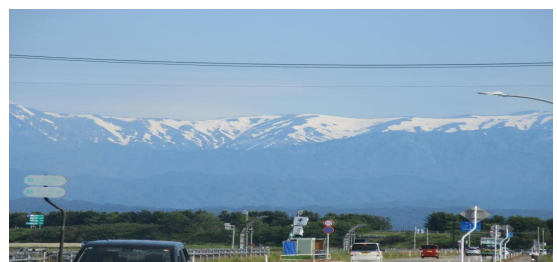
会津若松市立永和小学校長 橋本 淳

毎朝、笈川街道で朝の交通指導をしています。そこは飯豊連峰がはっきり見える場所で、晴れた空の青と山頂の白のコントラストが見事です。その光景を見ると、耶麻地区で勤務した日々を思い出します。

耶麻地区の校長先生方には、4年間大変お世話になりました。特に3年目は小学校長会庶務、4年目は小中学校長会連絡協議会庶務を拝命し、右往左往ばかりでご迷惑をおかけしたと反省しています。

耶麻地区での思い出は数多くありますが、令和5年度の県小学校長会会津大会への参加は忘れられません。紆余曲折あって発表者になりました。引き受けたはいいけど、そもそも「発表？何を？どういうこと？」と根本的に分かっていない私を、同じ班の校長先生方中心に大きなバックアップをいただき、何とか大役を果たすことができました。(当時慶徳小校長だった佐瀬俊英先生、発表に巻き込んでしまってすみません。)その夜、会津若松駅前の某中華料理店で、皆さんと一緒にいただいたドリンクの爽快な喉越しも忘れません。

温かいだけでなく、時に厳しいお言葉をいただいたことは、校長としての職責の重さを自覚し、自分自身の甘さを引き締めて日々の仕事に精励する契機となりました。本当にありがとうございました。これからの耶麻地区校長会の益々のご活躍とご発展を永和の地よりお祈り申し上げます。



～転出校長より～

「耶麻での学びを道標に」

前喜多方市立駒形小学校長

坂下町立坂下南小学校長 佐藤 孝宏

耶麻地区校長会の皆様には、駒形小学校在任中、多大なるご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

駒形小学校での2年間は、「耶麻は一つ」の言葉に励まされた日々でした。児童約60名と少人数でアットホームな環境に恵まれた一方、クマやイノシシへの対応に苦慮したことは、今でも鮮明に記憶に残っています。当時、耶麻地区校長会は私にとって「心の支えであり、進むべき道を照らしてくれる道標」のような存在でした。楽しい雰囲気の中で何でも相談でき、校長先生方が私の悩みを我が事のように受け止め、温かいエールを送り続けてくださったおかげで、安心して職責を果たすことができました。

4月、現在の坂下南小学校へ赴任いたしました。児童数は前任校の5倍以上となる334名に急増し、私にとっては学校経営への大きな挑戦となりました。毎日様々な出来事が起きる中、特にバス待ち児童の見守りと安全指導には想定以上の負担と苦勞を伴っています。めまぐるしい課題に追われ、瞬く間に月日が流れていますが、耶麻の地で培った経験と先生方からの教を胸に、現在も朝の街頭指導とあいさつ運動を続けております。「挨拶の声が大きくなってきたな」など、日々の嬉しい気付きが現在の私の原動力です。

耶麻地区での学びと心温まる思い出を胸に、これからも子どもたちのために全力を尽くしたいと思えます。

結びに、耶麻地区校長会の益々のご発展と、校長先生方の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

～退職校長より～

「健康第一で」

前喜多方市立第三小学校長

佐瀬 俊英

先日、久しぶりに喜多方に行く機会があり、縦貫道を車で走っている車窓から見えた飯豊山等々の景色。4年間毎日見ていた景色も、耶麻地区を離れてわずか3か月ですが、とても懐かしさを感じました。

耶麻地区校長会の皆様には、4年間大変お世話になりました。皆様の温かな雰囲気にもまれて教職生活締めくくりの時を過ごせたことに、改めて御礼申し上げます。

4年前、これまで一度も勤務をしたことのない耶麻地区に勤務することになり、不安いっぱいの中でスタート。1年目は小教研事務局長、その後の2年間は小教研会長、4年目研究物展実行委員長といろいろな役職を仰せつかりましたが、校長会の皆様に支えられ、何とか無事に勤め上げることができました。本当にありがとうございました。

6月になり、現在勤務している会津自然の家では各学校の宿泊学習が多くなり、毎日元気いっぱいの子どもたちの声が響き渡っています。そんな中で私は、子どもたちの活動が充実するものとなるように、そして楽しい思い出となるように、子どもたちの活動を精一杯サポートさせていただき毎日を送っています。仕事は変われど、やっぱり子どもたちの笑顔を求めている自分がいることを感じながら。

さて、還暦を迎えた後、私の身体にもいろいろな変化が現れ、病院通いの日々が多くなってきました。今後は、自分の体と相談しながら生活していくようになっていくのかな？健康は私たちの生活の基盤です。どうか各校長先生方におかれましても、健康第一でご活躍いただきますようお願い申し上げます。併せて、耶麻地区小学校校長会の皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。



～退職校長より～

「校長職を終えて」

前喜多方市立豊川小学校長 樋口 喜敬

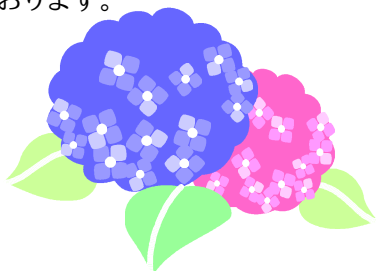
無職として2ヶ月が過ぎました。毎日これといったことをするのでもなく、家のごみを片付けたり、畑を耕し花壇を整理したりと我が家の用務員のような生活をしています。

塩川小で3年、豊川小で1年、計4年間耶麻地区小中学校校長会の皆様には、大変お世話になりました。校長として悩んだり、落ち込んだりしたときに相談に乗って頂き、愚痴を聞いて頂きました。耶麻地区の校長先生方には、どれほど助けて頂いたか分かりません。また、そういう話が言えるいい雰囲気在校長会だったと思います。

校長としての一番大切な仕事は何かと言われると、学校の役割や教育活動のよさを価値づけ、しっかりと周りに伝えることかと思えます。今、何をすることがいいことか、何をやらなければいけないのか、先生方や地域の方、子どもたちや保護者の方に分かりやすく示すことです。そして、頑張っている先生方や子どもたちの良いところを認め、褒めて伸ばしてやることです。校長職の最後の方でそう感じました。最初から分かっていたら、また違う学校運営ができたかもしれません。

ともかく、校長として大きな事故もなく無事にその期間を終えることができたことに、何よりも安堵しています。ご一緒した先生方、子どもたち、保護者の方など感謝に堪えません。ありがとうございました。

予想以上に少子化の波が学校運営に大きく関わってきています。子どもの減少、教育予算減少の中で、どう工夫して学校を運営していくか管理職の力が問われる時代です。その中で、特徴ある教育で地元愛に溢れる子どもの育成に励んで頂ければと思います。お体をご自愛頂き、さらなる校長会の発展をお祈りいたしております。



～新会員の声～

「地域と学校が一体に」

喜多方市立第三小学校長 大野 武文

この度、初めて会津・耶麻の地でお世話になることとなりました。

本校は、家庭や地域との結びつきが強い全校児童43名の小規模校です。早速、先日第一回学校運営協議会でその強みを実感しました。委員の皆様と「地域のリソース(資源)を最大限に生かすには」をテーマに熟議を行い、本気で語り合いました。

ここでは授業でも使うデジタル掲示板「パドレット」を導入し、ICTの活用で、限られた時間内でも大量の意見や斬新なアイデアが可視化され、大変活気ある場となりました。地域と学校が一体となるという協議会のねらいが、まさに体现された瞬間でした。

「子どもたちのために何ができるか」を自分事として語り合う姿に、地域を思うからこそ生まれる強い協働の絆と、無限の可能性を確信いたしました。

着任以来、耶麻地区の校長先生方の温かいお人柄と、この地が持つ豊かな地域性に触れ、日々深い感銘を受けております。

この素晴らしい環境で勤務できる喜びを日々噛み締めているところです。

未熟者ではございますが、諸先輩方の教えを乞いながら、耶麻地区の教育の発展に尽力する所存です。

今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



～新会員の声～

「農業科からアントレプレナーシップへ」

喜多方市立関柴小学校長 神田 忠恒

教頭時代にお世話になった喜多方市に、再び校長として奉職する機会をいただき、懐かしさと同時に大きな喜びが胸に満ちています。あの頃と変わらぬ美しい飯豊連峰の山並みと人々の温かさに触れ、身の引き締まる思いです。

管理職としての校長という職責は、学校全体の教育に最終責任を負うこともあり、教頭時代のそれとは比較にならないほどであり、日々その重さを感じています。しかし、勤務する関柴地区は、学校を深く理解し、全面的に協力してくださる素晴らしい地域の方々がいっぱいいます。この強固な地域との絆こそが、私の校長としての挑戦を支えてくれる最高の財産と思っています。

今、私たちが子どもたちに育むべきものの一つとして挙げられるのは、予測困難な未来を生き抜く力です。喜多方市が長年培ってきた「農業科」の学習は、まさにその土台となります。関柴小では、この農業科での収穫や発見を原動力とし、子どもたちが主体的に社会へ関わる「アントレプレナーシップ(起業家精神)」の育成に挑戦します。自らアイデアを出し、地域と協力しながら具現化していく経験を通し、**挑戦**を恐れない心を育てたいと考えております。

教頭時代に私を育ててくれたこの喜多方へ、今度は校長として、教育をとおして恩返しをしたい。その強い決意のもと、子どもたちの輝く未来のために、地域と共に一步一步、歩みを進めてまいります。校長会の諸先輩方、今後とも御指導と御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



～新会員の声～

「様々ななかわりの中で」

喜多方市立駒形小学校長 高橋 俊充

駒形小の校章には、「緑豊かな森林と会津平野を代表とする穀倉地帯の広がる環境の中で、子どもたちが自然の恵みを受けながら、たわわに実っていく稲穂のように、共に手を取り合って伸び伸びと成長していったほしい」という願いが込められています。まさに、この由来どおり、東には雄国山系、目の前には田畑が広がる素晴らしい環境の中で、素直で、ひたむきで、元気で明るく、何事にも一生懸命な子どもたちが育っています。

もちろん、この素晴らしい子どもたちを育てるのは、豊かな自然環境だけではありません。保護者をはじめ、学校運営協議員、農業科支援員、見守り隊、駒形公民館、駒形こども園、こまがた元気会、雄国山麓ゆめクラブなどなど…。数多くの地域の皆様とのかかわりの中で、大切に大切に育まれてきた駒形小の子どもたちの素晴らしさです。

新任校長として、この子どもたちに私は一体何ができるのか。これまでご指導いただいた諸先輩方の言葉を思い出します。

「汝、何のために其処に在り也」

前任校における働き方改革推進の知見を活かして、教職員の「観」の転換及び「バイアス」から脱却、「業務改善」と「授業改善」を両輪とした働き方改革を推進し、子どもも教職員も「学校に来て楽しかった。また明日も学校に行きたい。」と思える学校、地域と共に子どもたちを育む学校づくりに邁進してまいります。

校長として、また、教育者としてもまだまだ未熟な私でありますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



～新会員の声～

「たくさんの『笑顔』の花を」

北塩原村立裏磐梯小学校長 松井 誓子

この度、歴史と伝統ある裏磐梯小学校の校長を拝命いたしました。新任校長として、耶麻地区校長会の諸先生方の仲間入りをさせていただきましたことを、心より光栄に存じます。と同時に、その職責の重さに身が引き締まる思いでいっぱいでございます。

着任初日、まだ雪が残る美しい磐梯山と、キラキラと輝く湖沼群に迎えられ、この素晴らしい環境の中で子どもたちと過ごせる喜びが胸にこみ上げてまいりました。学校に響き渡る子どもたちの元気な声、そして地域の方々の温かい眼差しに触れ、裏磐梯の皆様の教育への深い愛情を肌で感じております。

私は今年、「笑顔」を大切にしたいと思っております。学校の主役である子どもたちが安心して生き生きと学び、日々の教育活動を支える先生方が、やりがいを持って生き生きと力を発揮できる、そんな笑顔あふれる学校にしていきたいと考えております。さらに、学校の取り組みを通して、いつも温かく見守ってくださる地域の方々にも、たくさんの笑顔になっていただくことが私の願いです。一人ひとりの心に寄り添う、しなやかできめ細やかな視点を大切にしながら、学校と地域にたくさんの笑顔の花を咲かせてまいります。

校長としての歩みはまだ始まったばかりで、戸惑うことも多いかと存じますが、地域の皆様に愛される学校づくりに、一生懸命励んでまいります。

諸先生方には、これから多くの場面でご指導を仰ぐことになるかと思っております。どうか温かく支えていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



学校経営あれこれ

シン読解力育成！

西会津町立西会津小学校長 齋藤 勝芳

西会津町では小中連携として基礎的読解力向上(RS)に取り組んでいます。町予算を使ってテスト(高学年児童)も受験することができ、6分野7項目(・係り受け解析 ・照応解決 ・同義文判定 ・推論 ・イメージ同定 ・具体例同定辞書 ・具体例同定理数)のどこが課題かが見えてきます。私も、赴任した年に受験して問われていることが分からず、苦戦しました。教育のための科学研究所の方のご指導を受けていると、その教科特有の学習言語の理解が乏しいことが分かりました。だから、中学までは適当に解いていた教科が、高校でつまづいていたのです。では具体的な取組ですが大きく以下の3点です。

1 学習の土台をつくる

- (1) 筆記量を意識した授業
- (2) 全校で1週間に1回は朝時間に1分視写
- (3) 視写に熟達したら聴写へ
- (4) 明日の支度をするときの5分復習1分予習

2 授業準備

- (1) 教師が教科書を正しく読む
- (2) 子どもが教科書から答えを見つけて挙手

3 ノート指導と共書き

中学校では各教科で定義文の読み解き指導がポイントです。そして、数学では「和文数訳」が授業の本丸とのことです。

RSの取組を学校全体で本気で取り組んだ自治体は学力が確実に伸びているそうです。本校でも児童一人一人をよく見て、シン読解力を伸ばしていきます。

参考文献「シン読解力の土台を作る教育実践便覧」





【三ノ倉高原 菜の花畑】

【編集後記】

飯豊連峰の山並みが夏の青空に美しく映え、裏磐梯の湖沼群がキラキラと輝く季節となりました。会員の皆様におかれましては、日々の学校経営ならびに地域教育の充実に邁進されておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、本号では穴澤会長による「三十八年目の学び直し」の巻頭言をはじめ、耶麻の地を離れられた先生方からの心温まる惜別のメッセージ、そして熱い決意に満ちた新会員の先生方の声を掲載いたしました。また、「学校経営あれこれ」では、西会津小の齋藤校長先生より実践的な「シン読解力育成」の取り組みをご寄稿いただき、大変読み応えのある充実した一冊となりました。

各先生方の文章に通底しているのは、「耶麻は一つ」という強い絆と、子どもたちや地域を思う温かい眼差しです。少子化や教育環境の変化など、管理職としての舵取りが問われる時代ではありますが、本会報が皆様の「心の支え」や日々の実践への「道標」となれば幸いです。

結びに、ご多忙中にもかかわらず原稿をお寄せいただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、耶麻地区小学校長会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

広報部長 喜多方市立熱塩加納小学校長 佐藤 仁
広報副部長 喜多方市立慶徳小学校長 久保田義春